



学校だより



第4号
令和8年3月10日

令和7年の4月、満開の桜に見守られながら始まった今年度ももう少しで終わろうとしています。保護者の方、地域の方、関係機関の方々のご協力、ご支援を受け、令和7年度も実りの多い一年間となりました。どうもありがとうございました。

学校だより第4号では、3月11日に卒業を迎える高等部の皆さんへ、校長よりお祝いのメッセージを送ります。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。高校生活を過ごした三年間、うまくいった日もあれば、思うように進まない日もあったことでしょう。その一つひとつが、皆さんを確かに成長させ、今の皆さんをつくってきました。

学校で過ごした時間は、振り返ればあっという間だったかもしれません。しかし、この三年間で学んだこと、仲間と支え合った経験、悩みながら自分と向き合った日々は、これからの人生の大きな力になります。どうか胸を張って、ここで得たものを次のステージへ持って行ってください。

これから進む道は、一人ひとり異なります。新しい環境は期待もあれば不安もあるでしょう。でも、皆さんはすでに多くの困難を乗り越えてきたはずです。その経験こそが、未来への確かな土台となります。焦らず、自分らしく、一步ずつ前へ進んでください。

最後に、皆さんを支えてくださったご家族、仲間、そして地域の皆さまにも深く感謝を申し上げます。これからも多くの人とのつながりを大切に、周囲への感謝を忘れず歩んでください。

皆さんの未来が、多くの出会いと可能性に満ちた、明るいものであることを願っています。ご卒業、本当におめでとう。

校長 藤田 肇

2月19日(木)には、第3回学校運営協議会(コミュニティースクール)が開催され、今年度の学校の取り組みに対する評価についてご意見をいただきましたので、ご報告します。

年間を通して2回行われた、学校防災(福祉避難所)部会と切れ目ない支援部会の報告もあわせて掲載します。

意思決定支援の取り組みについて

学習評価が測りづらい子どもたちの評価をどのように見える化するか。その達成を含めて、自分たちの評価に取り入れていかないといけない。

自己理解・他者理解を促す指導

小・中学部では、身辺自立を中心とした「自立」、高等部では自分を律する「自律」を身に付けていけるとよい。子どもたちの変容の様子や手立てが具体的に評価の中に取り入れられるとよい。

進路指導について

学校卒業後の行く先を決めて終わるのではなく、子どもが小さい頃から地域の中で育ち、地域の方を信頼して地域に出ていけるよう、移行支援について学校からの発信がされるとよい。

地域との協働について

1回で終わらず、繰り返し交流が行われていることがよい。地域の方と子どもたちがつながることが大切。実際に触れ合うことでお互いにわかりあえる。

学校防災(福祉避難所)部会

想定を超えた災害が起きた時も、子どもたちの安全を守り、福祉避難所の役割も果たせるよう、来年度も学校防災活動を充実させていく。来年度の防災デイは、地域の方と防災について考える機会にしていきたい。

切れ目ない支援部会

「共生社会に向けて学校が担う事」をテーマに、学校での取り組みや委員からの意見をいただいた。鎌倉支援学校を知ってもらい、障害への理解と、子どもたちが様々な形で繋がりができるよう、交流や出前授業等を続けていきたい。

今年一年間、学校だよりをとおして本校の教育活動や子どもたちの様子についてお伝えしてきました。来年度も読みやすく、わかりやすい学校だよりを目指していきます。

